

釧路工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	英語
科目基礎情報						
科目番号	0005		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	機械工学分野		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	テキスト：自主教材 自学自習教材：eラーニングで身につける初級英語・基礎 参考書：1. ジーニアス総合英語（大修館書店） 2. フォレスト総合英語 7 訂版（桐原書店） 3. シード総合英語四訂新版（文英堂） 4.チャート式基礎からの新々総合英語（数研出版）					
担当教員	矢野 隼人					
到達目標						
簡単な論理的文章を英語で記述し、英語でコミュニケーションを行うための基礎知識を身に付けるために、 1. 高校1年生に必要とされる英文法を理解し、その知識を運用できる。 2. 英語検定準2級の試験に対応するために必要とされる英語力を身に付けるために、基礎的な語彙力、読解力、表現力などを習得し、それを運用できる						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	高校1年生に必要とされる英文法を十分に理解し、それをを用いた短い英文を作ることができる。		高校1年生に必要とされる英文法を概ね理解し、それが用いられた英文の意味を読み取れる。		中学校で学んだ英文法を十分に理解できず、それが用いられた英文の意味も読み取れない。	
評価項目2	英語検定準2級の問題を6割以上正解できる。		英語検定3級レベルの問題をほぼ正解できる。		英語検定準3級レベル問題を5割以下しか正解できない。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 F						
教育方法等						
概要	自主教材を用いて授業を行う。中学校で既習の英文法を復習することで基礎英文法の理解を深めその定着を図ると同時に、高校1年生に必要とされる英文法を学び、演習問題を通してその定着を図る。そうすることで英語検定準2級レベルの英語に対応するために必要とされる英語力の基礎を習得し、簡単な論理的文章を英語で記述したり英語でコミュニケーションを行うための基礎力を養成することを目指す。					
授業の進め方・方法	文法項目を説明した自主教材を配布し、適宜説明を行う。その後練習問題を実際に解くことを通して、その文法項目のさらなる理解と定着を図る。本授業の合否判定で用いる成績評価は定期試験の平均点が100%である。 ○1年生の「英語」の評価方法について ・片岡、林、矢野のそれぞれの合否判定用成績の平均点を60%、単語テストの成績の平均点を20%、英検テストの成績の平均点を20%として、その合計点を算出し、その合計点に0.9を乗じて、それにeラーニングで身につける初級英語・基礎の評価点を加算して、その合計点を「英語」の合否判定用成績とする。 計算式で示すと、以下のようになる。(k, h, y はそれぞれ片岡、林、矢野の合否判定用成績の平均点、Wt は単語テストの成績の平均点、Et は英検テストの平均点、eL はeラーニングの評価点、Total が「英語」の合否判定用成績。) Total = { (k + h + y) × 1/3 × 0.6 + Wt × 0.2 + Et × 0.2 } × 0.9 + eL * 単語テストの成績は100点満点に換算した得点の平均点である。 * 「eラーニング教材の「初級・基礎」による評価点は、以下の通りである。 1. 『本科 (Lesson) の「イントロダクション」から「Lesson 8」まで』を完了すれば3点。 2. 『本科 (Lesson) の「Lesson 9」から「ランダム演習」の最後まで』も完了すれば6点。 3. すべて完了すれば10点。 ・「英語」の最終評価は、合否判定用成績が60点以上の場合、上記の計算式のk, h, y にそれぞれ片岡、林、矢野の最終評価点を入れて算出した Total の数値となる。 ○「英語」の再試験について 1. 「英語」の評価で合格点に達しなかったものを対象に、片岡、林、矢野の3人のそれぞれが再試験を実施する。ただし、受験するのは、定期試験の平均点が60点未満だった教員の再試験だけである。 2. 再試験で合格となるためには、以下のいずれかに該当しなければならない。 ① k', h', y' をそれぞれ片岡、林、矢野の再試験の得点（再試験を受けない場合には定期試験の平均点）とした場合、次の式が60点以上になった場合。(k' + h' + y') × 1/3 ただし、定期試験の得点だけで（再試験をひとつも受けることなく）この式が60点以上になっている場合には再試験ではなく、片岡の課す課題の実施状況によって合否を判断する。 ② 定期試験の得点のところに再試験の得点（再試験を受けない場合には定期試験の得点）を置き換えて上記の合否判定用成績算出の計算式で算出した成績が60点以上になった場合、eラーニングの評価点を変更することによって合否判定用成績算出の計算式で算出した成績が60点以上になった場合、またはその両方によって合否判定用成績算出の計算式で算出した成績が60点以上になった場合。 関連科目：英語（2年）					
注意点	授業で配布された教材（プリント）は、確実にファイリングして復習に利用できるようにしておくこと。授業後は、例文や練習問題の英文を繰り返し音読する等の復習を行うこと。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス 5文型（1）		5文型の基礎的内容を理解できる。 第1文型（SV）、第2文型（SVC）、第3文型（SVO）を理解できる。	
		2週	5文型（2）		5文型を全般的に理解できる。 第4文型(SVOO)、第5文型(SVOC)を理解できる。	
		3週	to 不定詞（1）		不定詞の3つの用法の基礎を理解できる。 to 不定詞の名詞的用法を理解できる。	
		4週	to 不定詞（2）		to 不定詞の形容詞的用法。副詞的用法を理解できる。	
		5週	to 不定詞（3）		to 不定詞の発展的な使い方（SVO + to 不定詞、疑問詞 + to 不定詞 等）を理解できる。	
		6週	受動態（1）		受動態の基本的な使い方を理解できる。	
		7週	受動態（2）		受動態の発展的な使い方を理解できる。	
		8週	前期中間試験を実施する			
	2ndQ	9週	助動詞（1）		助動詞の基礎を理解できる。	

後期		10週	助動詞（２）	助動詞の発展的な使い方を理解できる。
		11週	進行形	進行形を理解できる。
		12週	動名詞（１）	動名詞の基礎を理解できる。
		13週	動名詞（２）	動名詞の発展的な使い方を理解できる。
		14週	形容詞としての分詞（１）	形容詞用法の現在分詞を理解できる。
		15週	形容詞としての分詞（２）	形容詞用法の過去分詞を理解できる。
		16週	前期期末試験を:実施する	
	3rdQ	1週	現在完了（１）	現在完了の基礎を理解できる。
		2週	現在完了（２）	現在完了の発展的な用法を理解できる。
		3週	過去完了	過去完了を理解できる。
		4週	関係代名詞（１）	関係代名詞の基礎を理解できる。
		5週	関係代名詞（２）	関係代名詞の主格、目的格、所有格を理解できる。
		6週	関係代名詞（３）	関係代名詞の発展的な内容を理解できる。
		7週	関係代名詞（４）	その他の関係代名詞（ what など）の用法を理解できる。
		8週	後期中間試験を:実施する	
	4thQ	9週	比較級（１）	同等比較と比較級を理解できる。
		10週	比較級（２）	最上級を理解できる。
		11週	形式主語の It	形式主語の It の使い方を理解できる。
		12週	知覚動詞	知覚動詞 + O + 原形不定詞の用法を理解できる。
		13週	使役動詞	使役動詞 + O + 原形不定詞の用法を理解できる。
		14週	関係副詞（１）	関係副詞の when と where の使い方を理解できる。
		15週	関係副詞（２）	関係副詞の why と how の使い方を理解できる。
		16週	後期末試験を:実施する	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	1	
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	1	
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	1	
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	1	
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	1	
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	1	
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	1	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	1	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	1	
				実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	1	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0